

令和元年度 西町目標に対する反省

① 利用者との1対1の関りの充実を図る。

- ・ 毎食後の口腔ケアの実施はできていたが、残菌がある方の磨き方が不十分であったり自力でされる方の仕上げ磨きができていなかった。
- ・ 痰絡みが多い方は食後に関わらず随時口腔ケアを実施し、痰の除去に努めることができた。
- ・ 利用者個々の介助中に会話（雑談等）を交えながら対応できた。
- ・ 機能訓練では必要時に訓練指導員へ相談することで連携が取れていた。
- ・ 保清面では入浴中止の方の清拭や更衣等は随時行えていたが爪や髭、食後の口回りの汚れの除去等は保清が行き届いていない場合があった。
- ・ 入浴後や清拭後に保湿液を忘れずに塗布することが徹底できていた。また、腋窩のかぶれが多くみられていたが軟膏塗布や除圧に努めることで軽減を図ることができた。看取りケアの方の毎日の清拭についても看護職と協力し実施することができた。
- ・ 環境整備では訪室時に目についたところについては掃除できていたものの、特に掃除の時間を設けていた訳ではないので、ベッド下の埃等気になる所が度々見受けられた。
- ・ 離床時間については個々の身体状態を鑑みながら、本人の負担等を考慮した上で離床できている。

② 家族との信頼関係を深め、協力を得ながらそれぞれの利用者の希望や思いをできる限り叶えられるよう努める。

- ・ 本人と意思伝達が可能な方については希望や思いを聞き出し、できる限りその思いに応えることができていたと思うが、伝達不可能な方はその思いやニーズを汲み取り、家族に尋ねる等したりして対応した。
- ・ 面会時は居室や寮母室で一緒に過ごして頂ける空間作りを行い、家族との触れ合いの時間を作れた。また、日々の状態報告を行い、必要時には看護職より状態を報告する等、情報の共有ができていた。

③ 職員 1 人 1 人のスキルアップを図り、苑全体で協力しながら看取りケアの充実を図る。

- ・ 疑問に思ったことや改善点等を職員間で相談し、必要時には他職種間との連携も取れていた。
- ・ 看取りケアについて今年度は件数が多かった。その 1 人 1 人に寄り添い、その日、その時間にどのようなケアが必要かを考え、職員間で情報を共有し統一したケアを行い、家族・職員共に悔いの残らない介護に努めた。
- ・ 急変し亡くなった方もおり、普段からの関りが大切だということを改めて実感した。
- ・ 看取りを終えてからの振り返りの時間も必要であったと思う。
- ・ 静養室に入られた等の変化があった際に、他のユニットへの情報共有が不十分だったこともあった。西町だけでなく、もっと苑全体での看取りケアができればよかった。
- ・ グリーフケアを通じて、亡くなられた利用者のことを思い出し、自分の介護技術やケアへの思い等を見直すことができた。今後も継続していきたい。